言語

ことわざの学習　1

年

名前

1 ①から④の意味のことわざを、［　　］から選び、［　　］に書きましょう。

① つらくてもしんぼうして続ければ、成功する。［　　］

② 人生では、成功も失敗もある。失敗してもあきらめずに努力せよ。［　　］

③ 原因をつくらなければ、結果は生じない。［　　］

④ あわてず、確実な方法をとるほうがよい。［　　］

［負けるが勝ち　まかぬ種は生えぬ　七転び八起き　石の上にも三年　急がば回れ　つめに火をともす］

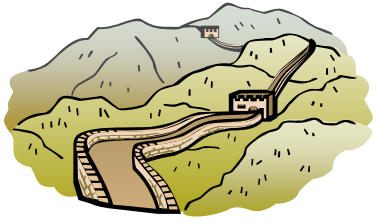
2 （　　）の中に漢数字を書き入れて、ことわざを完成しましょう。

① （　　）里の道も（　　）歩より

② （　　）寸の虫にも（　　）分の魂

③ （　　）聞は（　　）見にしかず

④ （　　）兎追う者は、（　　）兎も得ず



3 ①から④までのことわざと、よく似た意味に使われていることわざをA～Dの中から選び、線で結びましょう。

① 弘法にも筆の誤り　・

② 石橋をたたいてわたる　・

③ すずめ百まで踊り忘れず　・

④ のれんに腕押し　・

・ A　ぬかにくぎ

・ B　三つ子の魂百まで

・ C　さるも木から落ちる

・ D　念には念を入れよ

国語

ことわざの学習　1

年

名前

答え

1 ①から④の意味のことわざを、［　　］から選び、［　　］に書きましょう。

① つらくてもしんぼうして続ければ、成功する。
石の上にも三年

② 人生では、成功も失敗もある。失敗してもあきらめずに努力せよ。
七転び八起き

③ 原因をつくらなければ、結果は生じない。
まかぬ種は生えぬ

④ あわてず、確実な方法をとるほうがよい。
急がば回れ

［負けるが勝ち　まかぬ種は生えぬ　七転び八起き　石の上にも三年　急がば回れ　つめに火をともす］

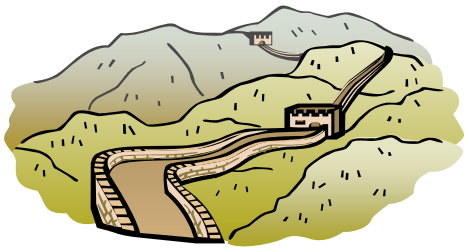
2 （　　）の中に漢数字を書き入れて、ことわざを完成しましょう。

① （千）里の道も（一）歩より

② （一）寸の虫にも（五）分の魂

③ （百）聞は（一）見にしかず

④ （二）兎追う者は、（一）兎も得ず



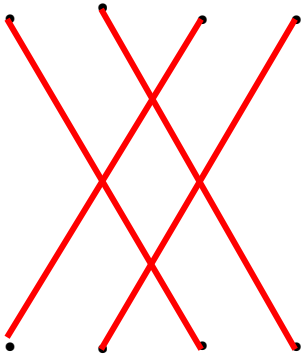
3 ①から④までのことわざと、よく似た意味に使われていることわざをA～Dの中から選び、線で結びましょう。

① 弘法にも筆の誤り　　A 三つ子の魂百まで

② 石橋をたたいて渡る　　B ぬかにくぎ

③ すずめ百まで踊り忘れず　　C さるも木から落ちる

④ のれんに腕押し　　D 念には念を入れよ



国語

ことわざの学習　1

年

名前

解説

1　ことわざの意味を理解しましょう。

① **石の上にも三年**……つらくてもしんぼうして続ければ、成功する
・三年すれば石も暖まることから、しんぼうして続ければ成功するという意味を表した。

② **七転び八起き**……人生では、成功も失敗もある。失敗してもあきらめずに努力せよ。
・七度転んでも、八度起き上がることから、あきらめないことの大切さを教えている。

③ **まかぬ種は生えぬ**……原因をつくらなければ、結果は生じない。
・種をまかなければ何も生えないことから、何もしなければよい結果は生まれないという意味を表している。

④ **急がば回れ**……あわてず、確実な方法をとるほうがよい。
・危ない近道よりも、安全な道を回る方がかえって確実に着くことから、急いでいるときこそ、確実な方法をとるほうがよいことを表している。

2　漢数字を使ったことわざに親しみましょう。

① **千里の道も一歩より**
・遠い道も一歩から始まる。小さな一歩を積み重ねよう。

② **一寸の虫にも五分の魂**
・どんなに小さく弱い者も、あなどってはいけない。

③ **百聞は一見にしかず**
・話を何度聞くよりも、自分の目で見た方が分かる。

④ **二兎追う者は、一兎も得ず**
・同時に二つを得ようとしても、結局できない。

ことわざは、短い表現ですが、味わい深いものがあります。
意味がよく分からなかったことわざについては、ことわざ辞典で調べ、確かめてみましょう。

※　漢数字を使ったことわざは、他にもたくさんあります。調べてみましょう。

仏の顔も三度
一事が万事
一矢報いる

3　ことわざの意味を考え、同じような意味をもつことわざを見つけましょう。

① 「**弘法にも筆の誤り**」と「**さるも木から落ちる**」
・どんなに上手でも、ときには失敗することがある。

② 「**石橋をたたいてわたる**」と「**念には念を入れよ**」
・用心した上にさらに用心せよ。

③ 「**すずめ百まで踊り忘れず**」と「**三つ子の魂百まで**」
・小さいころから身につけた性質は、改めにくい。

④ 「**のれんに腕押し**」と「**ぬかにくぎ**」
・努力しても、手ごたえがない。

※　同じような意味を持つことわざが他にもないか調べてみましょう。

虻蜂取らず
二兎追う者は、一兎も得ず